

日本初のインプラント治療用ドリルを開発 業界トップを走り続ける110年企業



株式会社 デンテック

デンテックの創業は1907年。木村社長の曾祖父が、金属製のかんざし職人として培った技術を用い、日本初の歯科用ドリルを作って以来、複雑な加工技術や高度なノウハウが必要となる医療器具を手がけてきた。近年は、大学病院の医師からの要望を受け、絶妙な切れ味と耐久性を備えたインプラント治療用ドリルを開発。独自のノウハウ

を確立し、トップクラスのシェアを誇る。木村社長は「開発と、それをカタチにする技術の両方を持つことが当社の強み」と胸を張る。

そしてもうひとつ、優れた品質を認められ世界中で使われているのが『ラバーダムクランプ』という歯科用の器具。海外で多用される治療法に欠かせないため、ロシアや中国など世界30か国以上で使用され、生産が追いつかない状態だ。今後は「外科や動物用の医療器具の製造にも力を入れたい」と木村社長は未来を見据える。



木村 太輔 代表取締役

お客様や
医療現場に対し、
ソリューション提案が
できるのが
強みです。

企業データ

板橋区清水町53-5
[TEL] 03-3964-2011 [URL] <https://www.dentech.co.jp>
[創業] 1907年
[事業内容] 歯科・外科医療用器具の製造・販売／動物用医療器具の製造・販売



注目の商品 インプラント治療用ドリル&海外で知名度大のラバーダムクランプ

インプラント治療用ドリル



かんざしの技術を原点に



第2次世界大戦後すぐに板橋へ。顧客である歯科関連企業や材料の仕入先が近いことがメリットだ。

最新機器と職人技を融合



数値を設定することで、ドリルの刃を自動で刻めるNC旋盤。培ったノウハウがなければ機械は使いこなせない。



ラバーダムクランプの仕上げ。

光る！ベテランのワザ



ラバーダムクランプ

ラバーダムクランプの仕上げには職人の手の感覚が不可欠。機械化で職人の負担を減らし、付加価値の高いスキルを持つ若手を育てる。